

緑地帯 巡・り・合・わ・せ

今年も新入生が来てくれた。それぞれの学生がクラスに編成され、担任と顔を合わせる。また、ある科目を履修して、その担任教員から講義を聞くことになる。

ある人が専大に入学し、1年3組に配属されること、さらに2年後、その人がMゼミナールに入ることすべてが偶然であるかもしれないし、あるいは意識的に決定されたことであるかもしれない。どちらにしろ、「見えない糸」で結ばれたのである。

ゼミの場合、何人かの学生を選抜して同期生が決まる。このこと自体、学生と教員の「巡り合わせ」であり、両者の関係はゼミ以外の科目におけるそれと比べて、濃厚でより親しい間柄となる。

ところが、卒業後は、両者の関係は二極化する。あたりまえのことであるが、縁を持ち続けようとするならば、縁は続く。そうでないならば、縁は切れてしまう。

今年3月、20年前卒業したゼミ生から結婚披露宴の通知を受け取った(縁が続いていたから)。良縁に巡り合ってE嬢と結婚するS君は、同期生のT君と比べて晩婚である。我々はいつ、良縁に巡り合うか分からないのである。

学園生活における一つの目標は良い友・良い師を得ること(出会うこと)である。「巡り合い」を大切に育てて、学園生活を楽しいものにしてほしい。(学生部)

[4月15日/ニュース専修11面]